



『新しい働き方』で、人も地域も元気になる!



「あったらいいな」「やってみたいな」を事業化して起業



営利を第一の目的としない事業



一人ひとりのスキルを活かし、働きがいのある人間らしい仕事。どのような事業を行えば地域のためになるか、自らが考え行動する、そんな仕事が増えることで、地域が活性化されていく…

それが「ワーカーズ・コレクティブ(働く人たちの協同組合)」の考え方です。

ワーカーズ・コレクティブは、働く人みなが対等な関係で「出資・経営・労働」を担い、それぞれの意見を反映させながら主体的に運営し、事業を行います。



違いを認め合ってともに働く

メンバー全員で経営にも責任をもって働きます。



■ 八王子にすでにあっ! (東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合)

NPO法人 こすもす @片倉

就労継続支援B型事業所「パン&カフェこすもす」

障がいのある人と地域で共に安心して働ける場所づくりを目指しています。天然酵母と国産小麦を使ったパンやスイーツ、喫茶の提供をしています。



ワーカーズ・コレクティブ かみつれ @別所

生活クラブのお店「デポー八王子みなみ」で主に販売を担っています。一人ひとりが情熱を持ち、アイデアを出し合って働いています。

NPO法人 食事サービス加多厨 @絹ヶ丘

高齢になっても障がいを持っていても、住み慣れたまちで生活できるように、食の面からサポートします。必要な方に1食から日曜日以外毎日昼食をお届けしています。

COP26にのぞむ



■ 新しい働き方の法律(ワーカーズ法)ができました。

生活者ネットワークは長年、東京ワーカーズと共に法制定運動に取り組み、2020年12月にワーカーズ法(労働者協同組合法)が成立しました。法人格の取得ができるようになり、新しい働き方が社会的な位置づけとなりました。

第一条(目的)には「多様な就労の機会を創出」「持続可能で活力ある地域社会の実現」が明記されています。

ワーカーズ(労働者協同組合)とは

「出資」「経営」「労働」を組合員全員が担い合う協同組合です。

『協同』とは「力をあわせ、助け合い、支え合って共に働くこと」



■ 地域で働く! 地域循環型コミュニティ経済へ

コロナ禍では、真っ先に非正規雇用などの弱者が切られてしまうなど、利益優先・資本主義の行き詰まりが明らかになりました。自分たちが地域で仕事起こしをしていく「ワーカーズ」を応援する法律ができたことは、人々が働き方を見直すきっかけになるかもしれません。生活者ネットワークは、ワーカーズ・コレクティブを地域につくり広げ、地域になくてはならない地域資源としての価値を高めていきます。



ワーカーズ法ガイドブック 詳しくはこちらから



八王子・生活者ネットワークは提案します!

(2022年度 八王子市への予算要望)

- 空き家や地域の資源の活用を促進し、マッチングをすすめる
- 新たな事業をはじめたい人や、アイデアをもつ人が集まり、交流できる場をつくる
- 地域の課題解決を行う起業や事業拡大を後押しする
- 「ワーカーズ・コレクティブ」について周知・啓発する

オンライン学習会案内

「これからの、感染症との付き合い方」

■日時: 2022年 1月15日(土) 14時~16時

■講師: 自然派医師 本間 真二郎さん

※下記までお申し込みください。 hachiouji-net@nifty.com (川合)

こんなこと、やってます!

■フォーラム



●8月8日 ワーカーズ法制定記念フォーラム in八王子@北野市民センター
共催:生活クラブ連動グループ八王子地域協議会 ワーカーズ圏東京三多摩山梨事業本部



■はつらつタイム

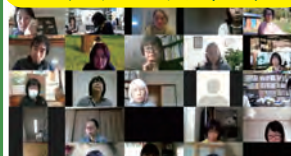
●9月30日 エネルギー基本計画のバブコメを出そう!



■オンライン学習会

●10月9日 教えて!山田センター 八王子中央診療所 小児科医 山田真先生 新型コロナワクチンについて、感染症との付き合い方

■ウィークエンドチャンネル



●10月8日 Part7 ゲスト:ワーカーズまちの縁側「すのなる木」代表 鳥家敏子さん

八王子・生活者ネットワークは2名の女性議員を持つローカルパーティ

3つのルール

- 1 議員は2期8年ローテーション
- 2 議員報酬は市民の政治活動資金に
- 3 選挙はカンパとボランティアで

HP, Facebook, LINE で情報配信しています!

きだ あや
Facebook

きだ あや

質疑動画は
こちらから

大量の残土で埋め立てないで (川町残土処分事業)

今年7月、熱海市伊豆山で土石流が発生した。土石流の原因は、まちを流れる逢初川上流部での盛土造成と言われている。川町残土処分事業は、本市北西部、大沢川源流域の谷戸15万㎡を55万㎡の残土で埋め立て、サッカー場などを建設する計画である。熱海土石流の現地に搬入された土量は7万㎡、その8倍の盛土をするとされており、熱海土石流の被害の大きさから近隣住民の不安は増している。以上のことから次の点について質問した。

事業計画が出てから9年、事業者による説明会はもう何年も開かれてお

らず、住民の理解は得られてはいない。スポーツパークの必要性、搬入する土砂の安全性、風水害等による土砂災害への懸念など、地域住民にいていねいに説明を行なっていくことを求めた。
★今年、計画地でサンコウチョウの営巣が見られた。本市に対し、源流域を残土で埋め立ててしまうのではなく、どうやって活かしていくか、地域住民と一体となることができるまちづくりを進めてほしいと要望した。

情報発信は十分か！

川口土地区画整理事業（川口物流拠点整備事業）の区域の下には圏央道が通っている。圏央道トンネルとの交差部分、トンネル上部の造成計画に変更があった。この部分に関しては、工事着工前から近隣住民が注目しており、造成上の重要なポイントとなる。多くの市民に知らせるため、説明会を開くべきだと求めた。

安全な環境をつくるために

香害被害者や化学物質過敏症の人が、公共施設で使われている消毒用の洗剤などの成分によって、ますます生きづらくなっている。体調不良を訴えても学校や会社で理解されずさらに苦しんでいる状況があることから、本市の対応を確認した。

消費生活センター作成の「香りのマナーポスター」を公共施設に常時掲示することとなった。

学校での対応は、天日干しした教科書や消臭紙でカバーをつけた教科書など対応本を必要な児童生徒へ配布している。その他、児童生徒の状況に応じて、家庭と連携しながら対応する。

★化学物質過敏症を罹患する人は年々増えているが、まだまだ現状は知られていない。においの感じ方は人それぞれで、においは見えず、感じない人には伝えにくいもの。具合が悪くなる人がいるなら使うのをやめるよう、予防原則に基づく対応を求めた。

前田 よし子
Facebook

前田 よし子

質疑動画は
こちらから

小中学校の混合名簿 使用について

性的マイノリティの子どもにとっては、自分のアイデンティティと異なる性別で区別されることは苦痛である。男女共同参画と人権の観点から、混合名簿使用の採用を進めるよう要望した。

●2021年度混合名簿使用の現状：小学校70校中65校、中学校38校中7校。中学校において、混合名簿使用が、以前よりも後退しているようだ。

●混合名簿使用の意義：男女共同参画の意義を踏まえて、状況に応じて名簿を使い分けできるように、各学校が判断していくことが大切。

●八王子市男女共同参画推進条例検討会での、教育関係者からの声：「子どもの頃からの意識醸成が将来にも影響を与えることから、子どもの頃からの男女共同参画に関する教育が重要」

現状把握のための市の 情報発信のあり方

保健所が発生届をとりまとめ、市HPにて、「新型コロナウイルス感染者数」と報告しているが、東京都、厚生労働省と同様に「検査陽性者数」と表記すべきと指摘した。

●現在の八王子市での対応
12-15歳の新型コロナワクチン接種クーポン：必要書類の他に、本市独自作成の「八王子市医師会小児科部会等」からのお手紙を同封。正しい情報に基づく判断の推奨。12-15歳は感染しても重症化しづらい。日本での20歳未満の死亡者ゼロなどの内容。

オリンピック・パラリンピック教育のあり方

2016年1月都教委は、スポーツ庁と組織委員会による有識者会議の最終提言を基に、東京都オリンピック・パラリンピック教育実施方針を策定。年35時間×6年間を使い、都内全公立学校でオリパラ教育が実施されてきた。方針には、思想信条の自由に反する内容も含まれており、学校教育で取り扱うべきものではなかったと考えている。コロナで1年延期となった学校連携観戦の実施状況と合わせて質問した。

<学校連携観戦について>

●2018年12月、市教委が、全学校・全学年で参加することを決定し、市内全ての学校が、教育課程として位置づけた。

●コロナで1年延期となったパラリンピック学校連携観戦は、本市では3校86人が競技観戦を行った。学校が、希望する児童生徒の引率を行うと判断し、市教委が、教育課程外の活動として実施できるよう支援した。

●2019年11月の最終意向調査（都教委→各校）：市内108校の回答を情報公開されたものを確認したところ、全学校が「全学年で行う」としていた。しかし自由記述欄には約6割の学校から「熱中症、食中毒、交通手段などの安全面、健康面から不安だ、無理がある」「市の方針だから仕方がない」などがあった。

当初の段階から、学校の実情に合わせた判断ができるよう支援すべきであったと指摘した。

★オリパラ教育、学校連携観戦について、教育委員会定例会では取り上げられていない。学校の自治、教育の独立性、市教委の役割について、問題があると感じた。

決算総括質疑

小中学校における情報教育の基盤整備（八王子市版GIGAスクール構想の導入・開始期の現状について）
端末使用時のデータの保存・閲覧・管理の仕組みについて確認した。使い方に注意の必要な端末を、一人一台貸与した責任を含め、今後の学校教育のあり方について問うた。

質疑動画は
こちらから